

静岡  
SHIZUOKA

## 三島市の観光活性化

～市街地から箱根エリアへ 協働による魅力の創造～

三嶋大社や楽寿園などの観光資源と、湧水や水辺環境の整備を始めとする市街地の魅力向上事業「街中がせせらぎ事業」の効果で、市街地を巡る観光客が増加している三島市。視察も多く、観光地としての評価も高まっているが、最近では市街地と箱根エリアを結びつけ、さらなる観光の魅力向上を目指している。

箱根峠から三島市街地へ下る旧東海道沿いに連なる箱根西麓地区。美しい富士を望むこの地区はまた、大根、じゃがいも、にんじんなど良質な野菜の生産地としても定評がある。そこで、地域の農業生産者グループが5年前から開始したのが「箱根だいこん祭り」。自家製の沢庵や新鮮な野菜の直売が好評で、近隣から毎年多数の観光客が訪れている。さらに昨秋は旅行会社と協力し、沢庵作りに欠かせない大根干しと富士山の風景を撮影するツアー商品を企画。首都圏から約80名が現地を訪れる実績を挙げた。

箱根峠を越えた芦ノ湖地区（箱根町）



富士をバックにした大根干しの風景（提供：三島市役所）

との観光連携も始まっている。芦ノ湖地区から三島までは車で約30分。歴史面、生活面とも三島との関係が深い。従来観光面での協力は少なかった。しかし、中部・関西など西からの観光誘客をにらんで、三島経由のルート強化したい芦ノ湖地区と、まちの魅力（市街地）、野菜や景観など里の魅力（箱根西麓）、箱根や温泉の魅力（芦ノ湖）の相乗効果を図る三島の狙いが一致。今年2月には三島市の職員らが箱根神社の祭典に参加して沢庵などをふるまい、三島と芦ノ湖の近さを観光客にPRした。今後イベントへの相互乗り入れや両地区での共同パンフレット作成などを予定。また両地区を巡るツアー形成も検討されている。

なお、これらの取り組みを支える原動力として注目されるのが、市、観光協会、商工会議所に加え商工業者、農業者、大学、NPOや市民団体など多彩な背景をもつ約60名が構成する「三島ルネッサンス推進委員会」。各委員がテーマごとに知恵やノウハウを出し合い協働するユニークな運営で、従来の発想にとらわれない新たな観光資源の発掘と魅力の創造を担っている。



三島～箱根西麓～芦ノ湖を結ぶ旧東海道（提供：三島市役所）

神奈川  
KANAGAWA

## MM線開通2周年で 悲喜こもこも

横浜の中心部を結ぶみなとみらい線（MM線）が開通してから、今年2月1日で2周年を迎えた。この間、沿線では観光客や企業の進出が急増する一方、隣接地ではオフィスや金融機関が流出してビジネスホテルやマンションが建設されるなど、街づくりに影響を及ぼしかねない現象も出始めている。

MM線は横浜駅からみなとみらい（MM）21地区を経由し、元町・中華街駅までの全長4.1キロを約7分で結ぶ地下鉄。開通時から東急東横線と相互乗り入れし、近い将来は東京メトロ13号線（池袋～新宿三丁目～渋谷駅間）、東武東上線、西武池袋線との乗り入れも計画されている。

MM線の開通により、「横浜の中心部の回遊性」と「横浜と渋谷・新宿方面とのアクセス」が飛躍的に向上。横浜市調べでは、MM21地区を訪れた人は2004年1年間で4,500万人に達し、前年を300万人も上回った。昨年の来訪者数は、まだ公表されていない。

横浜中華街も「開通効果」を享受。今年の春節（中国の旧正月、1月29日）は日曜日と重なったこともあって、過去最高の30万人が押し寄せ、獅子舞のルートを変更する騒ぎとなった。中華街の年間来訪者数はこれまで1,800万人止まりだったが、MM線の開通で2,000万人台に乗ったといわれる。

東京都心へのアクセスが良くなったことから、企業の進出も急増。MM21地区では日産自動車の本社（2010年）、アミューズメント機能を備えたセガの本社（同）などの移転計画が具体化している。MM21事業の悲願だ



開通2周年が経過したみなとみらい線

った「企業の本社誘致」が、ようやく軌道に乗り始めた。

ところが、同地区の隣接地では開通効果の影の部分も出始めている。官庁・オフィス街の関内地区では、大手企業の支店や金融機関が流出。その跡地にビジネスホテルやマンションが、次々建設されている。いずれもMM線が運んでくるビジネスマンや観光客をターゲットにしたものだ。

中華街の外周部にも、マンション建設の波が押し寄せている。「渋谷駅から最短35分のアクセスが裏目に出た」と横浜中華街発展会の役員は嘆く。今年3月に完成した「媽祖廟」はマンション予定地を発展会有志が買い取り、寺院としたものだが、莫大な費用を要するこの手段は二度と使えない。

MM線の開通効果が浸透するのに伴って、隣接地では街づくりに影響を及ぼしかねない現象をいかに抑えるかが課題になりそうだ。ビジネスホテルやマンションの建設ラッシュは、光と影が交差する「第二ラウンド」の前触れに過ぎないのかもしれない。